

## 編集後記

2015年度のアニュアルレポートができました。このレポートの役割は、単に外部への情報発信にとどまらず、院内の皆様にも他部門の努力の歩みを知ってもらうことにあります。前年度よりボリュームアップした今回のレポートを見ていただければ、当院の実績が着実に増えていることを実感していただけますし、さらなる発展につながると考えています。

さて2015年度ですが、中村孝志院長が5年間の院長業務を終え退任し、小西郁生新院長への引き継ぎが行われました。また、志馬伸朗救命救急部長も当院を後にし、広島大学大学院医歯薬保健学研究科応用生命科学部門救急集中治療医学科の教授として2015年9月1日に転任しました。これまでに当院の現役の医師が直接医学部教授に就任した例は、志馬伸朗救命救急部長で4人目です。1975年8月1日に杉山陽一産婦人科医長が三重大学医学部産婦人科教授に、2005年6月16日に坂井義治外科医長が京都大学医学部外科教授に、2008年4月1日に石倉宏恭救命救急部長が福岡大学医学部救命救急医学講座教授に、それぞれ転任しています。現在の京都医療センターには、実に20名を超える医師が京都大学医学部等の臨床教授の称号を持って活動していますし、また、臨床研究センターを中心に多くの重要な臨床研究が行われています。これらの事実は京都医療センターが大学病院に負けないうらいアカデミックな知見や考え方をもち臨床診療を続けてきた歴史の証と自負しています。

この数年の間に、社会情勢の変化に伴い、医療環境も大きく変わることが予想されますが、その中で、京都医療センターの担う役割は益々重要になると思われます。これからは私たちが最高レベルの医療を提供できる地域の中心的病院として前進していくこと、その道標を毎年のアニュアルレポートで御報告できることを、ここに誓い編集後記といたします。

広報委員会  
瀬田公一 塚原徹也